

研究の現場から

23.9.-7

入院患者の在宅復帰へ要因を分析

香川労災病院（香川県丸亀市城東町3）の理学療法士、出口貴行さん(35)は、K-MIX（かがわ遠隔医療ネットワーク）で運用している脳卒中地域連携クリティカルパスのデータから、入院患者の在宅への復帰と関連深い要因の分析などを進めている。

脳卒中発症直後に治療を受ける急性期の病院から回復期、維持期の病院へと切れ目なく治療を受けられるようにする診療計画表である同パスは、病院間を紙ベースでやり取りするのが一般的だが、09年1月、K-MIXでの運用が始まった。参加病院は限られるが、サーバーで一元管理されたデータを取り出せる。更に、患者の日常生活動作について、運動13項目、認知5項目にわたり、各1～7点、計18～126点で評価する機能的自立度評価法（FIM）の点数など、様々なデータを分析可能になった。

そこで、出口さんは、09年1月～11年3月に患者399人（32～96歳）を対象に分析。その結果、在宅への復帰は、FIMや機能的評価（BI）などの点数、急性期病院での入院日数と深い関連があると分かった。一方、疾患の種類や一部研究で関連性が報告されていた同居世帯人数や脳卒中重症度スコアなどは、評価手法でも

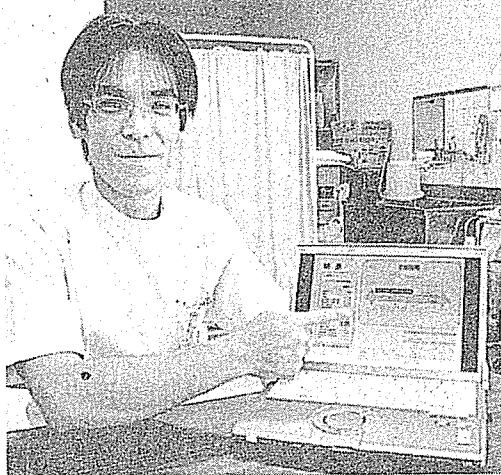
脳卒中重症度スコア（mRS）などは、あまり関連がみられなかった。

更に、FIM全18項目の点数と在宅復帰の関係を分析。食事や上半身の着替えなど、身の回りのことができる人ほど在宅復帰する傾向にあり、歩行や階段昇降など、ダイナミックな動作と在宅復帰の関連は少なかった。

「こうした分析で、在宅復帰へ向けたアプローチ方法が分かる」と出口さん。「今後、在宅施設にも対象を広げられれば、病気の再発などの傾向の分析ができる」と話す。ただ、そのためには、「小規模な所が多い、介護支援施設や訪問介護事業所などもネットワークに参加しやすくする環境作りが必要」と話す。

【吉田卓矢】

「K-MIXの利用で、より細かい分析ができるようになった」と話す出口さん



香川労災病院理学療法士 出口貴行さん

531億円(5.9%)増となり、5年ぶりの増収となった。増加した税目は、法人税の228億円を筆頭に、揮発油税などの間接税が201億円、相続税などの直接税64億円、消

円を超えていたことから、「当時の水準には戻っていないが、法人税が増えるなど、景気回復に向けた明るい兆しも見られる」と説明。また、ガソリンに課税される揮発油税の増加

税目別の収納状況は、源泉所得税2115億円(前年度比13億円増)▽申告所得税476億円(同21億円減)▽法人税2002億円(同228億円増)▽消費税2452億円

香川県3376億円(同327億円増)▽愛媛県3842億円(同24億円増)▽高知県1073億円(同58億円増)——といずれも増収となった。【浜名晋一】